

「韓流」の熱風と朝鮮語

高 明均
コ ミョンギョン

1. 韓流の起源と現状

‘韓流’とは、単なる辞書的な意味では‘韓国大衆文化の流行’を指す。この語が初めて産声を上げたのは1999年のことだった。中国の若者たちが韓国の大衆文化に心酔する姿を寒々しい思いで憂慮する人々の気持ちを、北京のマスコミは‘韓流’という新語の衣を着せて表現したのだった。実は、中国語でも‘韓流’は‘寒流’と同音異義語なのである。しかし、‘韓流’はこのように揶揄されながら誕生したにもかかわらず、瞬く間にアジアの人々の心をとらえた。

韓流ブームのルーツについてはさまざまな説があるが、1960年代に朴正熙大統領が主導した経済開発五カ年計画と、1970年代のセマウル運動に見出すことが出来るのではないかと筆者は考えている。20世紀前半期、韓国は日本の植民地支配や朝鮮戦争によってもたらされた経済的苦境を強いられていた。この苦境から脱却してより良い暮らしを享受するために、韓国社会は強力なリーダーシップを求めている。時あたかも、大統領に権限が集中した独裁に陥りやすい政治制度のもとで、さまざまな国家政策が強力に推進されていた。特に、全国的規模で展開されたセマウル運動（セマウルは「新しい村」という意味）は、生活環境を改善するとともに農村の収入を増大させることによって、1970年代の韓国社会を特徴付ける画期的な転機をもたらした。自助・自立精神を基盤としつつ、セマウル運動の初期には単純な農家の所得倍増運動が展開

されたが、これが多くの成果を収めた後、都市・職場・工場にまで運動が拡散し、勤勉・自助・協同を生活化する意識改革運動に発展していった。政府主導下に行われたセマウル運動は国民的近代化運動であったが、この運動を通して韓国は経済的に自立し、必ず先進国の一員になるという強固な意志を国民に植え付けた。こうした姿は近隣の東南アジアの開発途上国の人々を刺激し、韓国を知ろう、セマウル運動を学ぼうとして外国人が韓国を訪れ始めた。これが韓流の始まりだったのであるかと考える。

韓国は1980年代後半期にアジア大会とオリンピック大会を招致し、2002年にはワールドカップ韓日共同開催を実現させたが、これらのスポーツ・イベントを難なくやり遂げる中で、韓国に対する国際的イメージを一層高めた。一時、IMF経済危機が襲ったとはいえ、これを早期に克服し、IT産業に集中的に力を注いで情報化産業と生命工学分野の開発に拍車をかけつつ、急速な経済成長を成し遂げた。分断国家の痛みでもある北朝鮮の核開発問題を巡って、東北アジアのみならず世界中が懸念している下でも、2005年にはAPEC会議が釜山で開催され、20ヶ国余りの首脳が一堂に会し、韓国の発展した姿と将来の潜在的成長能力を確認して、韓流ブームを更に強めることとなった。

現在、韓流の主流をなしているのは、映画、ドラマ、大衆音楽、公演、ゲームなどの文化コンテンツ産業である。こうした韓流が形成

された背景には、韓国社会の変化と成熟があったことを指摘することが出来る。文民出身の金大中大統領が政権を維持していた頃、長官の中で最も実力を備えた文化部長官のもとで、文化産業は国家的戦略として推進された。韓国政府は文化政策の次元で韓流の戦略的活用と極大化を図っていたのである。映画やドラマを製作する時、その企画段階から広報、マーケティングに至るまで、大企業は積極的な投資と支援を惜しまなかった。こうして出来上がった作品は、従来、欧米物ばかりを追い求めていた人々の心をとらえ、そこに面白みを見出し、優れた作品はとてつもない収益をもたらすこととなった。隣国の中国や日本のみならず東南アジア諸国においても、コココーラ、マクドナルドのような西洋の文物ばかりに慣れ親しんでいたそれまでの日常生活の中で、ふとした機会に同じ東洋世界に属する韓国文化に接して新鮮な興味を覚え、東洋文化を共有する喜びを味わうことになったのである。

韓流は今日、近くは中国、台湾、モンゴル、ロシア極東地域、日本、ベトナム、遠くは地球の裏側に位置する中南米など多くの国の人々に影響を及ぼしている。そして、約600万人（米国210万人、中国200万人、日本60万人、中央アジア50万、その他）の在外同胞は、このような韓流を生み出す上で重要な役割を担っている。人口比率からみると、韓国の在外同胞の数はイスラエルに次いで多く、世界中どこに行っても韓国人と出会えるし、朝鮮語を耳にすることが出来る。日本の場合、日本に暮らしている外国人は約200万人で、このうち韓国籍か朝鮮籍を有する人が3分の1を占めている。また、日本人男性20名のうち1名は国際結婚をしているが、こうした現象は複合的な多文化を日本社会で形成し、韓流ブームはこのような社会的雰囲気と軌を一に

して登場したかのように思われる。韓国の在外同胞は、それぞれの居住国で韓国文化と朝鮮語を維持しており、韓国の新しい情報、ファッション、商品などを現地の人々に伝えるメッセンジャーとしての役割を果たしている。

1992年、韓国は中国との国交回復を実現させ、2000年代に入ると韓国の歌手やドラマが韓流ムードを自然な形で醸成し、さらには映画、ゲーム、衣類、食べ物、各種製品など多様な分野にまで韓流を拡散させた。こうして、中国では韓国に対する親密度が急上昇した。特に、文化商品だけ取り上げてみても、国別満足度では、北京と上海を中心とする中国では韓国ドラマと映画と大衆音楽が、日本ではドラマと映画が、ベトナムではドラマが特に好まれているとのことである。このほか、ゲームや歌手のコンサートなども高い関心を引き起こしている。特に中国では、朝鮮族の学生たちの間で韓国のシンガーの音楽テープやポスターが最高のプレゼントとして浮上したように、韓国製品を享有したいという欲求が高まる中で、韓国製品の購入が次第に増加する結果をもたらしている。

韓国の音楽は中国のものに比べて破格的かつエネルギッシュなので、中国の新世代の欲求を十分に満足させるものだった。日本では代表的な韓流ドラマ『冬のソナタ』に韓流の原点を見出すことが出来る。純粋な愛のストーリーを盛り込んだ『冬ソナ』は、日本の中年女性たちの心を揺さぶった。出演した俳優たちの魅力と美しい場面の数々、感傷的でロマンチックな音楽は、日本の視聴者たちを魅惑した。それは、O.S.T.アルバム、ファン・ミーティング、韓国ロケ現場見学ツアー、そして朝鮮語学習熱の高まりにまでつながっていった。ベトナムの場合、かつてベトナム戦争に参戦したという理由で韓国を排斥してきたが、韓国ドラマが現地に上陸してからは、

スター達の写真、ヘアスタイル、アクセサリ、韓国製品へと人気がつながりながら韓流ブームは続いている。

2. 韓流と朝鮮語

筆者はロシア極東地域のウラジオストクとサハリンを訪れたことがある。街中を走る自動車の多くは日本車で、家電製品では韓国産が目付いた。地理的に最も近い韓国へは飛行機と船の定期航路があり、これを利用して人的、物的、文化的交流が活発に行われている。とりわけ極東地方の一流大学である極東大学とサハリン師範大学で開設されている朝鮮語講座は学生たちの間で人気が高く、卒業後、就職口を得る上で有利だという。こうした事情から、この地では朝鮮語は韓流の尖兵的な役割を果している。また、この地域では衛星を通じて韓国のテレビ放送が視聴できるので、韓国文化にリアルタイムで接することができ、また放送内容は朝鮮語学習資料として活用されている。

このように、韓流の拡散は究極的には朝鮮語と密接な関係を結ぶようになった。最近の韓国教育人的資源部（日本の文科省に相当）の統計によれば、約2万人程度の外国人留学生が韓国に入国しており、韓国の文化に接しながら朝鮮語を学んでいる。そして、韓国が受け入れる外国人留学生の数は、2010年までに約5万人レベルに達するであろうと見られている。

一方、1997年からアメリカの大学進学適性試験（SAT）に朝鮮語が採択されてから、韓国政府はアメリカの中学校で朝鮮語教育を普及させるために努力している。また、2005年からはオーストラリアとカナダの朝鮮語教育課程開発に対して韓国政府は予算の一部を支援しており、この地域でも学習者が絶え間なく増え続けるに違いない。2002年、日本でもセ

ンター入試に朝鮮語が採択されてから、受験者が持続的に増加している。また、第8回韓国語能力試験では世界各地で1万8千人が受験し、その90%が外国人、残り10%が在外同胞だった。受験者は韓流ブームの影響もあって、東アジア地域で最も多く増加した。特に、日本における受験者が6,000人と最も多かった。

本学でも、静かではあるが持続的な韓流ムードが形成されている。今や、韓国の文化も「外国の文化の一つ」として、偏見なく受容されるようになった。それゆえ朝鮮語も、かつての「特殊語学」という汚名をそそぎ、ドイツ語やスペイン語などと同様に一つの外国語として学生たちは自然な形で受け容れるようになった。近年、外国語科目の中では朝鮮語の履修者数が急増しているのも、こうした認識の変化を反映した結果であろうと思われるのである。

3. 問題点、展望、提言

最近、中国、日本などにおいて、韓流ブームを憂慮する声とともに、嫌悪感を露骨に表明する人々が現れている。韓流を批判するウェブサイトが開設され、ネチズン（netizen）たちの共感を促す書き込みがなされているという。また、あるマスコミ情報によれば、ベトナムの高位当局者は“韓国ドラマはベトナムのテレビで放映されているのに、ベトナムの番組は韓国のテレビでは全く紹介されていない。今後、このような状況が改善されないならば、ベトナムでは韓国のテレビ番組の放映を規制する事態も起こりうる”と語ったという。また、韓国のドラマ番組に対する放映規制のみならず、ベトナムに輸入されている他の韓国産商品に対する貿易制裁措置を取ることもありうることを、遠まわしな表現で暗示したということである。

韓流現象をより広範な文化領域に拡散させ、長期にわたって持続させる上で、現在多くの問題点を抱えている。極端な例として、韓流の熱気が一部の芸能人に限られている点を指摘する事が出来る。彼らが出演する一部のドラマ、コンサート、映画には限界があるからである。韓流ムードが広まった地域の国民的情緒、社会環境、経済的現実などを勘案し、より大衆的な拡散が切に望まれる。他の国に文化を浸透させることは、その他のいかなる外交的努力よりも困難なことである。そうした意味でも、現在の韓流の熱気は望ましいものであるに違いない。今の韓流の熱気が泡のようにたちまち消えてしまうことなく、定着していくことが望まれる。しかし、そのためには韓流ブームの管理、発展を図るため

の多角的な研究を行い、有効な方策を絶えず熟考しなければならない。

21世紀は文化産業の発展が国家経済発展に大きく寄与する時代になると予見されている。現在、東南アジアを中心にブームを引き起こしている韓流現象は、海外で韓国の文化がよりよく理解され、朝鮮語の学習動機を高め、韓国製品に対する購買意欲を向上させており、その結果、韓国社会の発展にも寄与することだろう。しかし、文化の交流においても、一方的な交流などあってはならない。韓国社会も金大中政権時代から日本文化開放政策を徐々に進めてきたが、今後、さまざまな文化の相互交流がより深まり、多文化が共存する世界に発展していくことが期待される。